

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201918		
法人名	医療法人 社団 真友会 藤井医院		
事業所名	グループホームことひら ユニット名 ひかり・わかば		
所在地	長崎県佐世保市御船町411-3		
自己評価作成日	令和3年7月20日	評価結果市町村受理日	令和3年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和3年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保湾が一望できる高台に位置する当ホームは、医院長である母体医院の医院長が、長年「地域に根差した医療を」と取り組んできた地域に、感謝の意を込めて設立された。その意思を施設長が受けて理念に掲げ、職員に丁寧に伝えていった結果、今でも全職員にその思いが浸透している。私達は「最期までその人らしさを大切に」という思いを胸に、入居者様のご家族が「ここで過ごせて良かった」と言ってくれるような介護を目指し、日々支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関が母体となっている強みを活かし、きめ細やかな医療管理に努める当ホームは開設18年目を迎えた。施設長は日頃から職員や入居者と関わりを持ち、日頃の会話の中から細かな気づきや意見を集約、課題解決に向け風通しの良い職場環境を構築している。「思いやりを持ってお手伝いを行う」との視点は入居者の残された力を活かし、専門性を持った視点での支援によって入居者や家族の安心安全な暮らしの実現に繋げている。勤務経験が長い職員の介護経験がホームでの人材育成にも繋がり、職員が同じ方向を向き、離職の少ない職場環境であることは介護力の安定性にも繋がっている。ホームによる家族との丁寧な関わりは良好な関係性を築く事ができていると読み取ることができる。入居者の心と体が弾む生活を提供したい意気揚々と語る職員の姿に、今後もますます期待の持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 ひかり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ感染予防の為、毎朝の全体朝礼は行っていますが、各階の入り口に「理念」を掲げ、皆で共有して実践に繋げるようにしています。	新規採用職員は理念の暗唱を行うと共に、先輩職員より業務の流れを学ぶ事で、支援に対する方向性や理念の意図を汲み取る機会を準備している。日頃からの会議の場面でも職員が何を大切にしてどのような方向性で支援を行うのかを確認し、理念が身近に感じられるよう意識づけがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板やサロンでのレクレーションの担当を受け持ったり(結果中止になった)、運営推進会議においては、地域の方々に書面上ではありますが、参加し意見を頂いています。	コロナ渦で以前のような地域行事への参加やホーム行事が困難な状況にあるが、職員は毎日敷地に沿った道路清掃を行い、地域の一員として顔が見える関係づくりに努めている。運営推進会議は書面でのやり取りが中心となるが、職員は挨拶など繋がりが途切れない関わりによって地域からの有事の際の協力体制の確保に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問い合わせは随時受付、各専門委員が適切に対応しています。(電話・玄関先)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ケアの状況や、入居者様のご様子を地域の方々に知っていただく事で、その時々に応じた様々な助言を頂く機会になっています。(書面にて)	コロナ渦により対面での運営推進会議が困難となるが、職員は入居者の暮らしぶりや過ごし方を委員に具体的に伝え、ホームの理解に繋げている。職員はヒヤリハットや事故報告書を伝える事で参加者から多角的な意見を集約し、職員も支援の方向性や実施状況の確認に活かしている。今回は言葉遣いアンケートの結果を示す事で対応や対策について確認・振り返りの機会として活かした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修にリモート参加したり、窓口を訪れた際に市職員へ現状報告を行っています。担当の包括支援センターの職員と連携する事が多いです。	現在、直接支援に携わる職員が行政窓口を足で運ぶことは困難な状況にあるが、施設長が直接窓口へ運営推進会議の資料を届け、顔が見える関係づくりに努めている。職員はリモートでの研修参加への機会を作り、コロナ渦でも介護技術の研鑽に努め観察する視点や対応方法など入居者への丁寧な関わりが持てるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員による勉強会を開催し、具体的な行為を正しく理解して、ケアに取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会を中心に話し合う機会を持ち、今回は「虐待・身体拘束チェック表」で個々に振り返りを行った。人感センサーの使用については「お手伝いに駆けつける」との意識を持って関わり、使用方法や目的をその都度確認しながら身体拘束のない暮らしへと取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の内部研修を行い、勉強会にあわせてアンケートをとるなどして職員全体で虐待防止の意識を高めるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は入所時、居宅のケアマネージャーからの引継ぎで利用開始まで支援することができました。日常生活自立支援事業は入所前より現在に至るまで利用継続中の方がいらっしゃいますが、いずれも限られた職員が対応している為、他の職員に対し、勉強会は開催しておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には、利用者・ご家族様の様々な不安や疑問に対し、適切に答えられるようにしています。改定時には、その都度書類を準備し、説明と同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の時に相談できる機会を書面でお伝えしています。現在はご家族とお話できる機会が減っていますが、来所の際は積極的に声掛けを行っています。	季節毎にホーム便りを発行し、風景写真を通して暮らしぶりを伝えると共に、状態変化や受診の折には家族と治療方針の確認を行ない、意見や要望を汲み取っている。時期に応じて面会制限もあるが、今回、家族とガラス越しに正面対面できるようインターホンを導入し、ホームに足を運んで頂けるよう工夫を講じた。職員は本人や家族に意向を聞き、身近な存在となるよう丁寧に関わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の定例会・各階のミーティングにおいて、職員間の意見交換や提案等を話し合う機会を設ける他、随時意見を受け付けています。	職員はフロアミーティングを通して入居者の状況を把握し、業務の流れや気づきなど他部署の職員より意見を貰いながらより良いケアの実践に繋がっている。ホームでは相手の意見を認め合う風潮が浸透し、管理者は職員が意見を言いやすいように、アプローチの方法を検討しながら解決力の向上や風通しの良い職場環境へと取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績・勤務状況等は当施設長が把握しており、個々の労働時間にも対応し、研修等の要望があれば参加しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にあった外部研修には、オンラインにて参加させています。学んだことは書面に残し、皆で共有できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に近隣のグループホームのホーム長に参加していただき、その時や何か助言をいただきたい時などに電話やFAXにてやりとりをしています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が、1～2名の入居者様を受け持つ担当制を取っていて、その方々にあったプランを作成し、寄り添ったケアの向上に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で、ご家族様と職員の信頼関係が良好であるほうが、さらにより良い介護を提供できる旨ご説明し何かあれば何でもどの職員にでも伝えて下さるようお願いしております。ホームを訪問された時やお電話、ライン、メールでご利用者様のご様子をお伝えしつつ、ご意見や思いを聴かせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	得た情報、本人様・ご家族様の意見をもとに、「医療」「歯科などの専門医療」「理学療法」「入浴などの介護」など様々な分野からどれをいち早く支援するべきかを多職種で検討し、提供できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に設けている「家庭的な環境のもとで」を基本に、ご本人が出来ることをお手伝いしていただき、また人生の先輩として、職員の分からない事などを教えていただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と一緒に参加できる行事や買い物、食事などは現在は出来ませんが、専門医への病院受診はご家族様にお願いしております。又、声を聞かせていただけるよう電話でのやりとりやお孫様の写真や動画を送っていただいたりと、入居者様を職員と一緒に支援して頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・ご友人・ご近所の方など、いつでも訪問していただけるよう雰囲気作りに努めていましたが、現在は出来ない状況にあります。近所や以前よく行かれていた場所にドライブにお連れするなどに対応しています。	職員は入居者との会話の中から、その方が思い入れのある場所や人と繋げる働きかけを行い、入居後途切れがちな関係が継続できるよう努めています。コロナ渦で対外的な関わりを控える現状にあるが、職員は個別に入居者が以前勤めていた職場へ行き、昔を懐かしむ機会を設けた。地域の中での関係性を理解し馴染みの関係性を継続できるよう働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで過ごされている時は、作品作りを入居者様・職員を交えて、楽しく行っています。また入居者様の行動を見守り、必要に応じて支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了されても、相談を持ち込まれる事があれば、できる範囲で対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話を多くもち、少しでも気持ちを表出して頂くと同時に、表情や行動の変化を見落とさないように努めています。	ホームは入居後一定期間用紙を準備し、その方ができる事・嫌な事・好む物等具体的に追記し、多角的な視点からその方の情報を共有しながら不安感の理解、日常生活を安心して送る事ができるよう努めている。職員は入居者毎にコミュニケーションの取り方を工夫し、その方に必要な生活の質を高める為の手伝いとしての役割で関わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様ご自身よりお話ししていただく他、ご家族や入所前に利用されていた介護事業所や主治医から情報を頂き、可能な範囲で把握できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日常生活行動を通し、状態観察を行うと共に、その情報を職員間でも意見交換し、現状の把握に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者・担当職員がご本人やご家族の意向を伺い、入居者様にどのようなサービスが必要なのかを計画しています。	ホームでは本人や家族の意向を汲み取りながら、職員が行ったアセスメントを基に優先順位や支援の内容を検討し介護計画を立案している。介護計画では具体的な支援内容を示し、日常生活の中で活かされた支援を展開している。月末、もしくは定期的な評価では本人の現状に応じた計画であるか確認し、根拠に基づいた内容の変更・更新を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員が情報共有できるように、申し送りノートを作成しています。又、その時々での様子の変化等は、その日の勤務者で情報交換を行い、早期の介護の見直しへと繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに可能な限り対応したいと考えており、ホーム内サービスで対応できない場合は、ホーム外サービスと連携し提供できるように、日々取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在地域の行事への参加は出来ませんが、入居者様と季節ごとの貼り絵等の作品作りを、一人ひとりに出来る役割を持って参加できるよう、支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時は、夜間の緊急時の対応を鑑み、母体である藤井医院へ主治医の変更をできる限りでお願いしております。ただし、本人やご家族の希望があれば、その限りではありません。又、藤井医院では2週間に一回訪問診療、居宅療養管理指導が予定されており、3カ月に1回定期受診を行っています。また毎朝の状態を、主治医に報告しています。	母体が医療機関である事は、本人や家族、職員にとってホーム最大の安心感に繋がっており、主治医は、些細な変化も職員からの申し送りを受けながら現状に即した医療を受ける事ができる体制が整っている。職員はこまめに主治医と情報のやり取りを行い今後の体調変化や留意点を把握し、適切な医療を受ける事ができるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月曜日から土曜日の昼間は、常勤の看護職員に診てもらっています。夜間緊急時には、常勤の看護職員又は同一法人である医院へ連絡し指示を受けています。症状によっては、看護職員・主治医が容態を診に来られます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先との情報交換を行い、入居者様が安心して入院生活を送り、早期に退院することが出来るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームは母体が医院である為、医師・看護職員との協力体制が十分に取られています。入居者様・ご家族の意見を第一に、最期までその人らしく過ごして頂けるよう支援しています。また、状態の変化による治療を要した時は、都度医師よりご家族に説明を行っています。	ホームでは家族の意向を確認し、看取りケアを行っている。病気の影響で食事摂取量が低下している入居者には食事形態に変化をつけ、本人にとって口触りの良い食べ物を準備し対応している。コロナ渦で家族との面会対応に苦慮した場面もあったが、本人と家族の関係性を最大限に理解し、その方にとってできる最大限の対応を毎回振り返りながら看取りケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会での定期的に行われる勉強会において、看護職員より初期対応の訓練を行い、職員が慌てず対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回消防署より来所していただき、避難訓練の指導を受けていましたが、現在コロナ感染防止にて外部からの来所が出来なくなっています。今は防災委員が主となり、2カ月に一回のペースで職員と入居者様で避難訓練を実施し、後日改善点・反省点の話し合いを行い、今後の訓練に活かしています。	ホームでは防災委員を中心に避難訓練を実施し、実施者が非常時の行動を体得できるよう取り組んでいる。訓練では消防設備などを実際に操作し、入居者も訓練に参加する事で訓練実施結果を検証、消防計画の確認、見直しに繋げている。今回は火災マニュアルの再編成や地域への連絡網を新たに見直しシステムの変更も行うなど更なる安全に配慮した取り組みがなされている。	災害対策において、マニュアルの見直しや、安全面に配慮した避難訓練の実施がなされたが、風水害訓練の未実施や、非常持ち出しファイルが未作成であることが確認された。今年は県内はもとより、ホーム周辺でも水害が発生した状況である事からも、あらためて職員の意識付けと共に実際に風水害を想定した訓練の実施が求められる。風水害後の火災発生訓練など場面や訓練の工夫に期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時はノックをし、トイレでは膝にタオルを掛ける等、プライバシー保護に努めています。	ホームでは、入居者の意思決定の場面で、その方が自力で暮らし方を決めることができるよう、その方に応じた言葉を選ぶ関わりが持たれている。職員はその方の生活習慣やこだわりを知る事で、不安や怒りを感じさせないケアの実践に努め、人前で裸を晒す事や訪室時の職員の目線に注意を払い、その方の誇りやプライバシーを大切にしたい関わりを持つよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が不安な気持ちでおられる時は一対一で会話をし、思いを受け止めれるように、支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースではなく、入居者様のペースを崩さない様に、一人ひとりの意思に沿って支援するよう努力していますが、時に職員のペースになってしまう時があり、毎月のフロア会で反省しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で身だしなみやおしゃれが出来る方は、髪をまとめたりお好きな服を選んで着ておられます。ご自分で出来ない方は、職員がお手伝いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の生活の中で、一人ひとりが得意とする事・出来る事を理解し、食器洗い・お米洗い・野菜の皮むき等を、気持ちよくお手伝いしていただいています。	ホームは居間と食堂が隣接し、調理の音や香りを日常的に楽しむことができる住環境にある。外出ができないストレスを理解し、食事や行事食で季節の楽しみを感じる事ができるよう工夫している。味付けの場面で入居者が調理に参加し入居者が力を発揮する場面もある。湯飲み、箸、茶碗は入居者それぞれの思い入れがあるものを持ち込み、食器を介してからも食事の温かさを感じる事ができるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方は栄養補助食品の提供、また同一法人の栄養士のアドバイスを得ています。水分量の少ない方には、提供の度に水分量を記入し、1日の総飲水量を把握しています。総量が少ない場合は、お茶や水に限らず、コーヒーやジュース、また、誤嚥リスクが高い方は水分ゼリーを提供し、飲んでいただけるよう、声掛けを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科医師・歯科衛生士が当施設に来所され、口腔ケアの指導をいただいています。また毎食後のケア時には、職員が同行し見守り・介助を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を付けることで、一日を通した排泄パターンを把握し、トイレの声掛け介助を行い、排泄の失敗を軽減できるように支援しています。	入居者の心身の状態に応じた排泄の場を準備し、一時的に日常生活動作が低下した入居者も、適宜排泄方法を見直し、体調や状況に応じた排泄方法を選択している。職員は自力での排泄が困難な理由がどの部分の機能障害なのかを把握し、排泄の場面で介助者と距離感を保ちながらプライバシーを考慮した関わりに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時での水分(お茶・服薬時の水)、またヤクルト等の乳酸菌を毎日摂っていただき、料理にオリーブオイルやオリゴ糖を使用しています。運動は、外への散歩時の階段昇降や廊下歩行等を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週二回入られおり、湯舟にもゆつくり入られています。介助が必要な方に対しては、二人介助にて入っていただいています。入居者様の中には、前日から入浴準備をされ、楽しみにされている方もおられます。	今回、入居者や職員の身体への負担を考慮し、新たにシャワーチェアを購入し入居者が安全に安楽に入浴できるよう整備を行った。浴室はエアコンの設置があり、入居者が体感温度で入浴を拒むことがないように配慮し、入居者が不安なく、安心して入浴や清潔の保持に繋がるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、休息を取っていただいています。また日中は施設前を散歩したり近場へドライブにお連れしています。また作品作りを楽しくして安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には飲み間違えないように、名前・日付等を入居者様に分かるように声を出して読み上げ、服用されるまでを確認しています。また異常時には、看護師・病院へと報告を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内では、お一人お一人の役割があられ、自らお手伝いをして下さっています。また作品作りや、外への散歩・ドライブに、喜んで参加されています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への行事等の参加は現在は出来ていませんが、季節ごとの花見ドライブにお連れしています。またご家族が施設に来所された時は、希望に応じて玄関ドア(ガラスドア)越しで面会してもらっています。	コロナ渦で積極的な外出は困難な状況にあるが、職員は感染症の拡大状況や本人のストレスを確認しながら必要に応じて個別支援で対応している。外の空気を感ずる機会を提供したいと考え、現在は階下にある自家農園で季節野菜の植え付けから収穫までの一連の流れを楽しんでいる。感染症が落ち着けば家族と共に過ごせる時間を設ける等、気持ちが弾む計画を予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かり金を管理し、欲しい物を職員の介助のもと、購入されています。所持を希望される方には、ご家族の了承を得てお渡ししています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族様には了承を得ており、入居者様の希望があった時は対応しています。またご家族様からも電話や手紙を送られたりもされます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に気を配り、快適な環境を提供できるように工夫し、冬場は乾燥に注意し加湿器を設置しています。またトイレの入り口には、「空いています」「入ってます」の札を設置し、不快や混乱を招かないようにしています。	木製の家具や、温かみのある色調での空間づくりがなされ、入居者は自室と共用空間を思うままに行き来し、居心地のよい場所で時間を過ごされている。入居者の中にはリビングや廊下のモップがけ、手すりの拭き掃除など生活の役割を担う方もおり、入居者自身が生活に参加しホームが一つの家族であるかのような様子を感じることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに座って、入居者様同士でお話をされたり、玄関ホールに設置してある椅子に座って、窓の外を眺めながらゆっくりと過ごせる工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の馴染みの物やご家族の写真を貼ったり、好きなものを置いたりする事で、心地よく過ごせる様に工夫しています。	職員は入居者の動線に配慮し、本人が使いやすい場所への家具の設置や本人が大切にしてきた手回り品・仏壇等の持ち込みがある。本人が大切にしてきた日本舞踊の表札を本人の目の届く場所に飾り、仏壇の花の手入れや水の交換など、その方がこれまで大事にしてきた生活が入居後も継続できるよう配慮し、その方がその人らしく居心地がよい空間になるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、安全な環境作りに努めています。またトイレ・洗面所・居室には、分かりやすいように名称を記載しています。		



# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 わかば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ感染予防の為、毎朝の全体朝礼は行っていないが、各階の入り口に「理念」を掲げ、皆で共有して実践に繋げるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板やサロンでのレクレーションの担当を受け持ったり(結果中止になった)、運営推進会議においては、地域の方々に書面上ではありますが、参加し意見を頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問い合わせは随時受付、各専門委員が適切に対応しています。(電話・玄関先)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ケアの状況や、入居者様のご様子を地域の方々に知っていただく事で、その時々に応じ様々な助言を頂く機会になっています。(書面にて)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修にリモート参加したり、窓口を訪れた際に市職員へ現状報告を行っています。担当の包括支援センターの職員と連携する事が多いです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員による勉強会を開催し、具体的な行為を正しく理解して、ケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の内部研修を行い、勉強会にあわせてアンケートをとるなどして職員全体で虐待防止の意識を高めるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当される方が1名おられ以前は勉強会を行いました。最近では実施できていない為、勉強会を行い理解を深めたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には、利用者・ご家族様の様々な不安や疑問に対し、適切に答えられるようにしています。改定時には、その都度書類を準備し、説明と同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の時に相談できる機関を書面でお伝えしています。現在はご家族とお話できる機会が減っていますが、来所の際は積極的に声掛けを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の定例会・各階のミーティングにおいて、職員間の意見交換や提案等を話し合う機会を設ける他、随時意見を受け付けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績・勤務状況等は当施設長が把握しており、個々の労働時間にも対応し、研修等の要望があれば参加しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にあった外部研修には、オンラインにて参加させています。学んだことは書面に残し、皆で共有できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に近隣のグループホームのホーム長に参加していただき、その時や何か助言をいただきたい時などに電話やFAXにてやりとりをしています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が、1～2名の入居者様を受け持つ担当制を取っていて、その方々にあったプランを作成し、寄り添ったケアの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で、ご家族様と職員の信頼関係が良好であるほうが、さらにより良い介護を提供できる旨ご説明し何かあれば何でもどの職員にでも伝えて下さるようお願いしております。ホームを訪問された時やお電話、ライン、メールでご利用者様のご様子をお伝えしつつ、ご意見や思いを聴かせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	得た情報、本人様・ご家族様の意見をもとに、「医療」「歯科などの専門医療」「理学療法」「入浴などの介護」など様々な分野からどれをいち早く支援するべきかを多職種で検討し、提供できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に設けている「家庭的な環境のもとで」を基本に、ご本人が出来ることをお手伝いしていただき、また人生の先輩として、職員の分からない事などを教えていただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と一緒に参加できる行事や買い物、食事などは現在は出来ませんが、専門医への病院受診はご家族様をお願いしております。又、声を聞かせていただけるよう電話でのやりとりやお孫様の写真や動画を送っていただいたりと、入居者様を職員と一緒に支援して頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・ご友人・ご近所の方など、いつでも訪問していただけるよう雰囲気作りに努めていましたが、現在は出来ない状況にあります。近所や以前よく行かれていた場所にドライブにお連れするなどに対応しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで過ごされている時は、作品作りを入居者様・職員を交えて、楽しく行っています。また入居者様の行動を見守り、必要に応じて支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了されても、相談を持ち込まれる事があれば、できる範囲で対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話を多くもち、少しでも気持ちを表出して頂くと同時に、表情や行動の変化を見落とさないように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様ご自身よりお話していただく他、ご家族や入所前に利用されていた介護事業所や主治医から情報を頂き、可能な範囲で把握できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日常生活行動を通し、状態観察を行うと共に、その情報を職員間でも意見交換し、現状の把握に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者・担当職員がご本人やご家族の意向を伺い、入居者様にどのようなサービスが必要なのかを計画しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを作成しており、日々の情報を職員全員で共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに可能な限り対応したいと考えており、ホーム内サービスで対応できない場合は、ホーム外サービスと連携し提供できるように、日々取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者個々人の地域資源を把握するには至っておりませんが、ホーム周辺に居住しておられた方が多い為、昔話をし、今は無き、懐かしいパン屋さんや食堂などの話で盛り上がっています。又、近所の方をパートで雇用することで、その方職員から近所の情報を得たりされています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望があれば、他の医療関係の受診も行っており、当医院では2週間に1回の往診があり、3カ月に1回定期受診を行っています。また毎朝の状態を、主治医に報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月曜日から土曜日の昼間は、常勤の看護師に診てもらっています。夜間緊急時には、同一法人である医院へ連絡し、状態報告を行い指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先との情報交換を行い、入居者様が安心して入院生活を送り、早期に退院することが出来るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームは母体が医院である為、医師・看護師との協力体制が十分に取られています。入居者様・ご家族の意見を第一に、最期までその人らしく過ごして頂けるよう支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会での定期的に行われる勉強会において、看護師により初期対応の訓練をまなんでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回消防署より来所していただき、避難訓練の指導を受けていましたが、現在コロナ感染防止にて外部からの来所が出来なくなっています。今は防災委員が主となり、2カ月に一回のペースで職員と入居者様で、避難訓練を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時はノックをし、トイレでは膝にタオルを掛ける等、プライバシー保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が不安な気持ちでおられる時は一対一で会話をし、思いを受け止めてあげられるように、支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の施設の流れにおいて、入居者様の意思も取り入れて、過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で身だしなみやおしゃれが出来る方は、髪をまとめたりお好きな服を選んで着ておられます。ご自分で出来ない方は、職員がお手伝いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い・お米洗い・野菜の皮むき等は、声かけに気持ちよくお手伝いして下さっています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方は栄養補助食品の提供、また同一法人の栄養士のアドバイスをしています。水分量の少ない方には、提供の度に水分量を記入し、1日の総飲水量を把握しています。総量が少ない場合は、お茶や水に限らず、コーヒーやジュース、また、誤嚥リスクが高い方は水分ゼリーを提供し、飲んでいただけるよう、声掛けを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科医師・歯科衛生士が当施設に来所され、口腔ケアの指導をいただいています。また毎食後のケア時には、職員が同行し見守り・介助を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を付けることで、一日を通じた排泄パターンを把握し、トイレの声掛け介助を行い、排泄の失敗を軽減できるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時での水分(お茶・服薬時の水)、またヤクルト等の乳酸菌を毎日摂っていただき、料理にオリーブオイルやオリゴ糖を使用しています。運動は、外への散歩時の階段昇降や廊下歩行等を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週二回入られおり、湯舟にもゆっくり入られています。介助が必要な方に対しては、二人介助にて入っていただいています。入居者様の中には、前日から入浴準備をされ、楽しみにされている方もおられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、休息を取っていただいています。また日中は施設前を散歩したり近場へドライブにお連れしています。また作品作りを楽しくして安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には飲み間違えないように、名前・日付等を入居者様に分かるように声を出して読み上げ、服用されるまでを確認しています。また異常時には、看護師・病院へと報告を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内では、お一人お一人の役割があられ、自らお手伝いをして下さっています。また作品作りや、外への散歩・ドライブに、喜んで参加されています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への行事等の参加は、現在は出来ません。ドライブは、近場にお連れしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かり金を管理し、欲しい物を職員の介助のもと、購入されています。所持を希望される方には、ご家族の了承を得てお渡ししています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族様には了承を得ており、入居者様の希望があった時は対応しています。またご家族様からも電話や手紙を送られたりもされます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に気を配り、快適な環境を提供できるように工夫し、冬場は乾燥に注意し加湿器を設置しています。またトイレの入り口には、「空いています」「入ってます」の札を設置し、不快や混乱を招かないようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに座って、入居者様同士でお話をされたり、玄関ホールに設置してある椅子に座って、窓の外を眺めながらゆっくりと過ごせる工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の馴染みの物やご家族の写真を貼ったり、好きなものを置いたりする事で、心地よく過ごせる様に工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、安全な環境作りに努めています。またトイレ・洗面所・居室には、分かりやすいように名称を記載しています。		